行啓を迎へまつりて

倉橋惣三

皇后陛下には、十月二十七日、東京女子高等師範學校へ行啓あらせられ、附屬幼稚園も亦、御巡覽の光榮に浴した。バラツク平家建の校舍は廊下が長い、それを幼稚園まで、玉歩のお運びを願つたゞけでも、此上なく畏れ多い。

第一の室で、幼兒達は、まゝごとと床上積木をして居た。陛下には、畏れ多いほど、幼兒達の傍に近くお進み遊ばされて、ボール紙の人形のお家や家具をつくつて居る、女の子供達の小さい指さきにほゝ笑ませられた。そして校長の命によつて、御説明のためお側近く進んだ私を顧みさせられて、子ども達は皆丈夫ですかといふ意味のお言葉を賜はつた。そのお心の籠つた、第一のお言葉の有り難さが、今も尚ほ耳に殘る。積木では軍艦が出來て居た。男の子達は其のマストを飾る滿艦飾の旗を塗つて居た。昔の積木は小さいもの許りで御座いましたが、今日では斯うした大きい積木を用ゐますと申上げると、子ども達に取扱ひいゝでせうねといふ意味に仰せられた。陛下が御幼時、此の幼稚園にあらせられた頃の、小さい積木の遊びをお偲びになつたことゝ拜察申し上げた。第二室の作業室では、粘土製作の最中であつた。或る子どもは林檎やバナヽを作つて居た。或る子どもは人形をつくつて居た。或る子どもは美事な象をつくつて居た。陛下はそれ等の原始藝術的おもしろさに、一つ〳〵ほゝ笑ませられて、一人々々之れは何ですかとお尋ねになつたり、子どもの頭を、お撫で下さつたりした。有り難さとうれしさと、可愛らしさに溶けあつた、やわらかい笑聲が、室内にこぼれる。

第三の室は自由畫と塗り繪であつた。小さい畫家達は、椅子をづらす樣にして、机に腕をつけてクレイオンを動かして居た。陛下は、畏れ多くも、その後ろから、そつと其の小さい椅子をお押し下さつた。一人の子は、靜に身を浮かせて、机に近く押して下さつた椅子に、再び靜に腰をおろした。そして、また一心に描き出した。陛下には、その繪を御覽になつて、よく描けますねと仰せ下さつた。もう一人の子どもは、陛下がそつと椅子をお押し下さるのも心づかぬらしく、たゞ一心に塗り畫を塗りつゞけた。陛下は御手を其の椅子からおはなしになつて、一生懸命ですねと仰せながら、一段と晴やかにほゝ笑ませられた。私は眼の底が熱くなるを覺えた。やわらかい嚴そかさ、嚴かなやわらかさが全身に漲るを覺えた。國母陛下に椅子を押して頂きながら、それにも氣づかずに、一生懸命に畫をかいて居る子どもの姿。それは牡丹色の洋服を着た、小柄に肥えた、まる〳〵と頰の紅い子であつた。

第四室の一方の机では、器用に手を動して鋏をつかつて居た。いろ〳〵の色の紙が、いろ〳〵の形に切られる。一人の子どもが、面白い形のものを切つた。大森太夫が、之れは何だねと尋ねられたら、もぐらと答へた。それが、人々には、まぐろと聞えた。地の底のもぐらと、水の底のまぐろと、大變な違いだが、實は、どちらとも思へないことはない形であつた。お側の人々が、ほゝと笑つた。聲を立てゝ笑つた。それ程、實にそれ程、全體の空氣が、やわらかに溶けて居た。子どもの世界に打ちくつろがせ給ふた陛下の御態度や、御言葉を中心として、全園の空氣が、ゆつたりと、やわらげられて居たのである。もう一つの机では、小さい赤い紙を糸に通してつないで居た。その薄桃色の紙片の色と、糸に通して麥わらの黃な色と、やわらかい線とが、此の室にふさわしく机の上に散らばつて居る。

さつきから、ピヤノの音が聞えて居る。子どもの輕い聲も聞えて居た。それは遊戯室の方からだ。

陛下が、遊戯室にお入りになると、子ども達は直ぐ輪になつた。そして、ピアノに合はせて遊戯をつゞけた。「お日さま」「月の兎」「水兵」陛下には、ずつと前へお進みになつて、お眼鏡をお目にあてられながら、御熱心に御覽になる。無邪氣

な手振り、足とりに、ほゝ笑ませられて、いつ迄も御覧になる。「雀の學校」小さい顔と顔と向ひあはせて、チッパッパ〳〵といふのが、ほんとうに雀の子の樣に可愛いゝ。

最後に、幼兒製作品陳列室へ御入りになつた。そこは窓をあけ放つである。窓の外には秋晴の日光が庭一ぱいにあたつて居る。窓のすぐ向ふが砂場にあたる。そこでは多ぜいの子どもが、わき目もふらないで山をつくつて居る。以前の建物の位置とは少し傍へよりまして、庭もせまくなりましたと申し上げると、そうですね、藤棚もなくなりましたねと仰せある。惜しいことをしましたね。あの下で遊んだものですと仰せある。陛下の御幼時の御記憶が、あり〳〵とそこにお見え遊ばすのであらう。私達の使ひなれた言葉でいへば、いろ〳〵おなつかしく思召すのであろう。と私は思つた。砂場の遊びは又一としきり盛になつた。無心な子ども達は、手も休めずに砂を掬つて居る。

陛下が幼稚園で第一に御下問になつたことは、前に書いた樣に子ども達の健康であつた。お歸りがけには、また私を顧みさせて、いつでも子どもは可愛いらしいものですね。と仰せられた。此のお言葉は、たゞに此の幼稚園へでなく、幼稚園といふものへ賜はつたお言葉として拜してよかろう。單に幼稚園と限らず、我國のすべての幼兒へのお言葉として拜してもよかろう。

私達は、それから講堂の方へお伴申上げて行つたが、あとで、幼稚園の保姆諸君は、こみ上げて來る涙とゞめあえず、集つて泣いたといふ。おごそかにのみ恐畏し奉つて居た國母陛下の、子どもへの、あの、おやさしみ、あのおしたしみ。お待ちうけ申し上げて居た間の、おごそかな心持も忘れて仕舞ふ樣に、全園、たゞ香ぐわしい和氣の裡に溶けた有り難さが、またしても涙にこみ上げて來て、なんにも言へずに、たゞ泣いたといふ。